

屋久高演劇部

初の全国大会へ

九州一にー。
全国大会を決めた瞬間。

平成30年12月22・23日、福岡県筑後市のサザンクス筑後で開催された第60回九州高等学校演劇研究大会で、創作劇『ジョン・デンバーへの手紙』が最優秀賞を受賞した。

部長の濱田風沙さんは「不安や緊張はなかった。本番の1時間があつという間で、我を忘れて演じた。終演後、部員の顔を見渡すと、みんな笑顔で心から楽しかったと思える満足した顔をしていた。夢であった全国大会への出場が決まったときには、みんな声を上げて泣き、喜び合った。このメンバーでここまで来られた喜びを心と体で感じた」とその瞬間を振り返った。



『ジョン・デンバーへの手紙』に込めた思い。

大伐採が続く1970年代を舞台に、その惨状を告発する記録映画『屋久島からの報告』（78年）の制作に奔走した主人公や仲間たちの社会派ドラマである。顧問である上田美和教諭が、実話を基に創作した。

上田教諭は、「世界自然遺産の屋久島が、1970年代まで国内有数の林業の拠点であったことは知られていない。当時、『屋久島を守る会』や『屋久島の自然を記録する会』などが組織され、島民自らがさまざまな方法で伐採禁止を求める運動を展開したことに感動した。島民自らが故郷を守ろうと立ち上がった勇気を、高校演劇を通して島外の方々に伝えたかった」と語る。

物語のあらすじ

大伐採が続く屋久島ー。屋久島高校の実習助手、永山耕作は、山岳部の生徒たちと山に登る度に、国による乱伐に心を痛めていた。ついに永山と仲間たちは、山の惨状を告発する記録映画『屋久島からの報告』を制作しようと奮起する。

主人公の永山が、米カントリー歌手ジョン・デンバーに手紙を書く場面を軸に展開する。江戸時代から続く伐採の歴史、国有林となった後の島民たちと山との関係などが、永山の目を通して語られる。映画は完成し、さまざまな反対運動が結実して島の伐採が止まり、1993年に世界自然遺産になったと結ばれる。

主人公のモデルは、記録映画『屋久島からの報告』を制作した「屋久島の自然を記録する会」元代表の大山勇作さん。

演劇部年表!

「カントリー・ロード」などの名曲を世に出し、自然保護に関心が高かったジョン・デンバー氏に、大山さんが島の惨状を手紙で訴えて協力を求めると、2曲を無償で提供してくれたという実話を基に、女子部員でも演じられるようにストーリーを組み立てた。生徒も実際に大山さんから直接話を聞いたり、演技のアドバイスを受けたりしながら役作りをした。

部長から

私たちが頑張ることができたのは、家族、友達、学校、地域の皆さんの支えがあったからこそです。上位4校は、東京の国立劇場での公演が待っています。全国の舞台で最高の演技ができるように、これからも頑張っていきたいと思えます。

平成28年11月

県高等学校演劇祭
優秀賞1席(2位)

平成29年2月

県高等学校冬季県大会
最優秀賞(1位)

11月

県高等学校演劇祭
最優秀賞(1位)

12月

九州高校演劇研究大会
優秀賞2席(3位)

平成30年2月

県高等学校冬季県大会
優秀賞(2位)

11月

県高等学校演劇祭
最優秀賞(1位)

12月

九州高校演劇研究大会
最優秀賞(1位)

これからの出場予定

平成31年2月

県高等学校冬季県大会
全国高等学校総合文化祭(佐賀県鳥栖市民文化会館)

7月

全国約2100校の中から地区大会、都道府県大会、ブロック大会を経て推薦された12校が出場。

演劇部をみんなで応援しよう!
高校のホームページで随時情報を発信中

屋久島高等学校

